

低用量コルヒチンが2型糖尿病で心筋梗塞を発症した患者に有効

低用量コルヒチン^(註)が心臓血管病のある患者に有効であることが示されている。本研究では、COLchicine Cardiovascular Outcomes Trials (COLCOT)において、2型糖尿病のある患者を対象にその効果を分析し評価した。

COLCOTは、心筋梗塞後30日以内にコルヒチン0.5mg/日かプラセボを投与するランダム化二重盲検試験である。959例の2型糖尿病患者が登録され、モニタリングの中央値は22.6カ月であった。主要転帰イベントの発生はコルヒチン群の8.7%、プラセボ群の13.1%に認められた(ハザード比0.65、 $P=0.03$)。各群で吐き気が2.7%、0.8%に、肺炎は2.4%、0.4%に発生した($P=0.008$)。

したがって、2型糖尿病があり、30日以内に心筋梗塞を起こした患者では、コルヒチンを0.5mg/日摂取することで心臓血管イベントが大幅に減少することが示された。

(註)…リウマチや通風の治療に用いられてきたが、毒性も強く下痢や嘔吐などの副作用を伴う。

出典:Diabetes Care 2024 Jan 5; dc231825.